

1学年だより

夢の宅配便

1年学年主任

水野 喜代治

オセロゲーム NO18

オセロゲームは、挟まれると駒を裏返します。白から黒に、正反対の色に変わります。人間でいえば、賛成から反対に代わるようなものです。白の賛成派に挟まれたら反対派の黒が白に変わるわけです。ゲームをしていて、挟まれて自分の駒を裏返すときはちょっと腹も立ちます。(笑)

ゲームは、自分の駒がすべて、相手の色に変えられても「負けました。」と頭でも掻いて笑って済みますが、現実の生活の場面では、賛成から反対に変わったら笑い事ではすみません。しかし、どうでしょうか。人も駒と同じように周りが白で囲まれたら自分の気持ちや考えも白に裏返してしまうことはないでしょうか？

お笑い芸人のビートたけしが若いころネタで「赤信号、みんなで渡れば怖くない。」というギャグを言って1970年代後半の漫才ブームの人気者になりました。人には群集心理が働きます。みんなと同じことを考えたり、みんなと同じ行動をとると安心できる心理です。そのため、人は周りにAという雰囲気がつくられると自分はBと思っているのにオセロの駒のように考えをAに変えて行動してしまう恐れがあると思います。

授業中にクロムブックでゲームなどをしてはいけないことは誰もがわかっているルールでした。しかし、一人、二人とルールを守らない人が出てくると、規範意識が揺らいでいきます。

「赤信号みんなでわたれば怖くない。」のギャグが現実となっていきます。私たちは、このオセロや「赤信号……。」のことを意識して、自分を失わないように、正義を捨てないようにしなければなりません。国の政治の中で自分を失ったら、クロムブックのゲームどころか恐ろしい戦争へ足を踏み入れてしまうことにもなるかもしれないからです。

「赤信号」は何人で渡っても、決して渡ってはならないシグナルであることを忘れないでください。